

# 天地

ネットワーク テーブル 492号

天地シニアネットワーク 201

9. 4. 15

T E N T I T O D A Y			1
会員の広場			2
自 伝	満州を考える(1)	加藤 幹雄	2
歴 史	米国の統治の仕組みと大統領制、と建国の父たち(5) その2: 建国の父たち(1)	佐川 雄一	4
科 学	天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙を測れ 65. 物質を解凍する	伊那 闊歩	10
鼎 談	「静聴雨読庵より」 サロン・ド・ミュージック・クラシック(4) (5)ブラームスの室内楽	尾関 陽四	14
随 想	『誰も見てなくても良いことをする社会』(6) <世界の銀座にゴミはない>	臺 一郎	17
旅 行	二府、二県を二泊三日で、	津田 孚人	18
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」		20
事務局			21

\*\*\*\*\*

## T E N T I T O D A Y

\*\*\*\*\*

天地シニアネットワークは、4月で満19歳になりました。神田小川町の「はんこ屋」の二階からスタートし、大手町、神田淡路町、秋葉原、新御徒町、町屋と、拠点を変えながら続けてきましたが、最初から組織化を考えず、任意の個人グループとして運営して来たのが、良かったように思えます。風前の灯になって来ましたが、心はまだ折れていませんので、よろしく願います。

\*\*\*\*\*

新元号「令和」が決まり、新札が発行されるということですが、経済効果がどれだけ出るか、タヌキの皮算用がされています。新札について、キャッシュレス化の時代、どう流通していくか予想が難しいところですが、新旧の機械的な判定に混乱が発生し、少ない流通で終わるのではないかと危惧をしているのですが・・・。

\*\*\*\*\*

新道路建設で、総理、副総理に<付度>と、堂々と発言した副大臣が、辞任、続いて、まともに答弁できず、失言を重ねた大臣が辞任しました。在庫一掃で大臣に任命されたと言われていますが、国民にとっては、なめ

られた話です。

米中、二大強国時代を迎えて、日本の政治経済の舵取りが一段と難しくなる予想されます。適材適所、本当に力のある政治家が選ばれるべきです。

\*\*\*\*\*

日産自動車の臨時株主総会で、ゴーン元会長が、取締役解任されました。この事件、検察主導で進んでいますが、裸にされるゴーン氏、そして日産を見てみると、果たして日産が立ち直れるか心配になってきます。結局のところは、回復できず、仏ルノーの傘下にとりこまれる形になりそうな予感がします。株主は気が気でないでしょう。

\*\*\*\*\*

## 会員の広場

\*\*\*\*\*

満洲国を考える (1)

加藤幹雄

(2019-3-23)

### 一) 私自身と満洲

私は1938年2月5日、満洲国ハルビンで生まれ、敗戦と共に1946年10月に引き揚げてきた。満洲国は1932年に成立し、1945年に崩壊した。13年余り存続してこのうち私は満洲国に7年住んでいたことになる。何故満洲に住んだ我々同胞は石を持って追われることになったのか、何か他に道がなかったのかは、今も私にとって重い問いである。本稿ではまず前半で私自身の満洲体験を、後半で当時の歴史を振り返りながら、「分かれ道」となったと私が考える事象を五項目ほど上げてみたい。

#### 1) 家族のこと

<父>加藤幸四郎(1910-1992)京都市の呉服屋の4男。1929年にハルビンの日露協会学校(後のハルビン学院)に入学。後藤新平が創立したロシア語の専門学校で父は10期生、同期生は27名。第1期生には杉原千畝氏がいる。1932年卒業後、1935年に関東軍特務機関に就職したが、直ちに満鉄人事課に派遣される。

満洲国が中東鉄道をソ連から買収してその経営を満鉄が担当することになって、ソ連籍のロシア人が大量に帰国したので、その補充として満洲在の白系ロシア人を2000名採用することになった。

ソ連に繋がるような危険分子の潜入を防ぐため、特務機関の影響下にあったハルビンの白系露人事務局に支援を要請。その専務局長のマトコフスキーも父と同時に満鉄人事課に勤務。父の上司となった。二人のコンビで採用と教育を担当。1941年に軍隊に召集、特務機関に復帰。ロシア語教育隊の教頭等を務める。

敗戦は北朝鮮で迎える。ソ連の捕虜になったがシベリア送りは免れて1947年1月に引き揚げ。

<母>加藤淑子(1915-2018)京都市の呉服屋の長女として生まれる。1935年に幸四郎と結婚。ハルビンでの生活を始める。ハルビンは「東洋のパリ」とも呼ばれて欧州文化の香りが高く、母にとって

はカルチャーショックの連続だったようだ。「ハルビンの詩がきこえる」という著作を残した。

<幹雄>(1938-)、<幸子>(1940-)、<登紀子>(1943-)が生まれる。敗戦時はハルビン在。私は国民学校2年生。父の消息は不明。敗戦後のハルピンで一年余りを過ごして、1946年10月に引き揚げ。

## 2) 敗戦から引き揚げまで:

8月下旬に軍人の留守宅家族がまとまってハルビン郊外のハルビン女学校の寮に移動。ソ連軍がハルビンに進駐。猛烈な略奪が始まる。トラックを使った大掛かりな略奪もあった。ソ連軍は市民への略奪行為だけではなく、占領地の工場設備やインフラを倣去して本国に持ち帰るという行為を組織的に行った。これは中国人の深い恨みを買うことになった。

沢山の開拓団の避難民が着の身着のまま寮にやってきたのを覚えている。麻疹が大流行して子供が沢山亡くなった。栄養の良い食事をして安静にしていれば治癒するのだが環境が最悪だった。私はだから「麻疹」には独特の思いがある。我々兄妹は前年に麻疹を患っていて免疫が出来ていたので助かった。

冬が近づいて、寮での生活が先行きどうなるか不安なので、ハルビン市街の親戚宅に転居。母は洋裁の内職をして生計を立てる。私は日本人有力者の私塾のような学校に通う。場所も転々としたし、最後は廃校になった。中国人との接点も出来るようになり彼らの生活の一端を知ることになった。

## 3) 引き揚げ

昭和46年春から引き揚げが始まる。ハルビン地区は夏から。日本政府は外地の邦人は現地で自活せよとの方針で引き揚げの努力を放棄。日本の影響力が満洲に残ることを嫌ったアメリカ軍が引き揚げを主導。内戦下の国民党軍と中共軍に一時停戦をよびかけた。船舶(LST やリバティ船)も米国が提供。葫蘆島を港湾として整備。NHKのテレビドラマ「どこにもない国」は鞍山在の丸山邦雄等が満洲を脱出して帰国して、GHQのマッカサーに日本人の引き揚げを直訴する話だったが、この説得の効果がどの程度あったかは疑問。アメリカ軍は国民党に提供する軍事物資を自分の船艇で葫蘆島に運搬してその帰路に引き揚げ者を運んだ。

### ※引き揚げ

普通ならハルビンから日本まで3-4日で行けるのに、1カ月以上かかった。昭和21年9月6日にハルビンを出発。国共内戦下でハルビンと新京の間の第二松花江で両軍が対峙していた。これが日本人を引き揚げさせるための臨時停戦ラインだった。鉄橋が破壊されており、徒歩とボートで渡河。10キロは歩かされた。そこから無蓋の貨物列車で新京へ。途中猛烈な雨に見舞われる。

その後、奉天、錦州、葫蘆島と向かう。葫蘆島を貨物船で発ったのは10月初め、佐世保に上陸したのが、10月16日だった。糧秣は支給されて飢え

はなかった。それなりに安全は確保されていた。

その点、ソ満国境からの逃避行を余儀なくされた開拓団や、ソ連影響下にあった北朝鮮から引き揚げてきた人たちの悲惨な運命とは異なる。

この年、満州から約1万1000人が引き揚げたと言われる（ハルビンからは1500人）。「現代難民史」があるとしたら、この年の日本人の集団引き揚げは稀有な成功例になるのではないか。これを支えてくれた中国人やアメリカ人には本当に感謝している。

※私にとっての重い問い――満州から何故追われたのか？何か別の道がなかったのか？

「五族協和」「王道楽土」を掲げた満州国に大量の日本人が移り住む。敗戦時に民間人155万人、兵士を入れて2百数十万人の日本人が居た。民間人は引き揚げまで苦闘を強いられる。18万人が犠牲になったと言われるが、特にソ満国境に植民した満蒙開拓団が多く犠牲を出した。全体27万人中、8万人以上が亡くなったと推定されている。兵士の殆どはシベリアに抑留される。60万人中6万人の兵士が亡くなったとされる。最近抑留された捕虜の中に主として看護婦だが、女性が含まれていたことが明らかになっている。満蒙開拓団の中には、日本の被差別部落の集団移住も含まれる。

(つづく)

\*\*\*\*\*

## 米国の統治の仕組みと大統領制、と建国の父たち（5）

佐川雄一

### その2：建国の父たち

#### 1. はじめに

「建国の父たち」とは、独立宣言または合衆国憲法に署名した政治的指導者、あるいはアメリカ独立戦争にかかわった指導者たちを指し、アメリカ合衆国建国期の国造りに活躍・貢献した人たちである。ここでは、「建国の父たち」から歴史に名を残した6人を選んで彼らの生きざま・人物像・私生活に焦点を当ててお話ししたい。

- ① ジョージ・ワシントン、初代大統領（所属政党：1期 無所属、2期 The Federalists）
- ② ジョン・アダムズ、第2代大統領（The Federalists）
- ③ トーマス・ジェファーソン、第3代大統領（The Democrat - Republicans）
- ④ ジェームズ・マディソン、第4代大統領（The Democrat - Republicans）
- ⑤ ベンジャミン・フランクリン、
- ⑥ アレクサンダー・ハミルトン、初代の財務長官（The Federalists）

「建国の父たち」と呼ばれる人たちは WASPs (White Anglo-Saxon Puritans) であった。当時の米国社会の 70-80% 以上が WASPs であったことを考えれば別の選択肢はなかったのであろう。この他の共通項として、いずれも連邦政府の要職に就く前に植民地・州の統治（議員・州知事・他）にかかわっていたことである。建国期の植民者の間には、社会的地位が確立すると植民地の統治に参加する慣習があった。いろいろなバックグラウンドを持つ人たちではあるが、彼らは一様に、「人民は平等である」とするルールを守り、差別・蔑視観を抱くことなく、いずれも、合衆国の国益の維持・保護・擁護にコミットし、国家の健全・安定的な発展に寄与した国家指導者であった。

「建国の父たち」の中には、強い個性と強烈な出世欲をむき出しにした人々もいたが、反面、出世欲が低い人もいた。ジョージ・ワシントンは後者の例である。混とん・混乱した建国期のアメリカ社会を軌道に乗せる難事業には、個性豊かな人と、社会の結束に己の野心を辞するタイプ、双方が求められたのではなかろうか。

## 2. 建国の父たち

### 2-1. 初代大統領：ジョージ・ワシントン



#### 1 ドル紙幣の肖像画

ジョージ・ワシントンは米国初代の大統領（在任期間；1789 - 97年）である。1732年

2月22日、ヴァージニアで生まれた。ワシントンの職業欄を見ると、農園主と記されている。歴代大統領（除く：ドナルド・トランプ）44人中、農園主はワシントンと第39代大統領 ジェームズ・カーター：2人のみである。ワシントンの祖先は17世紀中葉ヴァージニアに移住したイングラント人、農地は父親・親族から引き継いだ。ワシントンは、死を恐れず戦場で戦い続けた不屈の戦闘精神、不遇な環境に不満を吐露せず忍耐力を持って切り抜ける強靱な肉体・精神力、また、同僚批判・陰湿な政敵の排除・追放活動に与することもなかった。ワシントンは、アメリカ社会のロール・モデルと評価されるが、若いころは人並みに金銭・地位・名声に対する欲望を持っていたという。年を重ねるごとに、より大きな大義への奉仕に専心するようになったのであろう。

ワシントンは、父親の後妻となる2番目の妻との間に生まれた6人兄弟の長男、異母兄弟を含めると10人兄弟の5番目であった。先妻との間で生まれた兄たちの中には英国に留学するものもいたが、ワシントンには留学のチャンスは与えられなかった。幼年期の教育は、家庭教師あるいは私学校で受けたが、15歳で終り、地元の大学に進学する機会にも恵まれなかった。建国初期（1789 - 1829年）、6人の大統領の中で、大学教育を受けていないのはワシントンのみである。16歳まで農場で働くが、その後、測量に関心を持ち、内陸部の測量調査に積極的に参加する。この努力が報われ、測量技師の資格を得る。当時、測量は、現金収入が得られる数少ない仕事であった。測量の仕事を通してヴァージニアの西に広がる広大な西部の未開地域に関心を持つ、併せ、広範な地域の測量調査にかかわった経験がアメリカ独立戦争で大いに役立つことになる。

1751 - 1752年、異母兄のローレンス（ワシントンが尊敬していた）について、西インド諸島バルバドスに旅行する。これがジョージ・ワシントンにとって生涯唯一の海外旅行となる。西インド諸島から戻ったワシントンは21歳になっていた、間もなくヴァージニアの民兵（現在の州兵に相当する、米国独特の予備兵力）に志願する。民兵志願はローレンス（軍役に服していた）の影響があったものと考えられる。当時、民兵には制服も軍靴も支給されず、給与も僅か、待遇は決してよくはなかったが、地域の防衛・治安維持に関心があったのであろう。

英仏戦争（1754 - '64年）が始まると、英国正規軍の要請を受け、ワシントンはヴァージニアの民兵隊長として仏軍との戦闘に参加する。ここでワシントンは、英国正規軍の規律・訓練、彼らが保有する近代的な重火器、さらに英国正規軍と民兵隊の給与・待遇に歴然たる格差があることを目の当たりにする。直ちに民兵隊本部に給与・待遇の改善を本隊に申し入れるが反応は鈍かった。英仏戦争におけるワシントンの活躍は際立ち、22歳で中佐に、23歳で大佐、ヴァージニア民兵隊司令官に昇進する。若くして大佐にまで昇進するも、給与は英国正規軍とくらべ位階が同じでも低いことがわかり、英国正規軍に待遇の改善を要請するが認められず、英国軍の対応に落胆する。アメリカ植民者は大佐以上の地位に昇進できないことが明らかになると、退役を決意し、マウント・バーノン（現在のワシントンDC郊外）の農園に戻る。

1758年、26歳の時、ヴァージニア植民地の地方議員に当選、地元の有力者との知己ができる。当時のアメリカでは、公職に就くことが上流階級の名誉・義務と考えられていたのでワシントンもこの道を選んだ。ワシントンはヴァージニアの議員として15年間、地域の発展に貢献する。また、起業家精神も旺盛であった。軍役から離れている間に、製粉工場や繊維工場を興した。タバコの栽培にも熱心に取り組み、品質管理に努めた結果、英国の輸入業者がワシントン農園からの積荷に対し品質チェック必要なしと烙印を押すほどになった。ワシントンは、ビジネスの世界でも成功する素材を持っていたと考えられる。

1759年、27歳で、ワシントンは2児の未亡人、マーサ（Martha, 夫は英

仏戦争で戦死)と結婚する。ワシントンにとって初婚であったが子供運には恵まれなかった。資産のあるマーサとの結婚で、ワシントンの農園面積は拡大する。マーサの前夫は、Bank of England (英国の中央銀行)の株式を所有していたというから、上流階級の出身者であったことが伺える。ワシントンは、長身 (6フィート2インチ)、均整のとれた体型を持ち、辺境で生きるフロンティア・マンの強靱さと教養人の両面を備えていた。独身時代、魅力的な女性に頻繁に手紙を出した記録が残っているが、女性問題でスキャンダルを起こすことはなかったようである。母親のワシントンに対する扱いは必ずしも愛情溢れたものではなかったが、ワシントンは母親を丁重に扱った。

他方、英仏戦争 (1754 - 63年) が英国の勝利で終結すると、財政状況の悪化もあり、その解決策の一助として、英国は北アメリカ植民地の直接支配を強化する。多くの日常必需品を課税対象にし、植民者の生活を圧迫することになる。その結果、対英不信が高まり、植民者に独立志向の機運が高まる。険悪化する対英関係を前に、12植民地の代表団が参加する第1回大陸会議 (1774年9 - 10月) がフィラデルフィアで開催される。

その後、最悪の事態；独立戦争が勃発すると (1775年4月)、急遽13州の代表団が再びフィラデルフィアに集い、第2回大陸会議 (1775年5月) を開催する。ヴァージニア植民地の代議員に選ばれたワシントンが参加すると同大陸会議の議長に選出される。

さらに、同年6月、英仏戦争の戦闘経験が高く評価され、アメリカ連合軍の総司令官に任命されることになる。この時点で、ワシントンは既にアメリカ合衆国の防衛に欠かせない国家リーダーとしての地位を築いていたのではないだろうか。ワシントンは必ずしも独立戦争に前向きではなかったが、独立戦争を容認するようになる。

総司令官に任命されたワシントンは、近代兵器と豊富な戦闘経験を持つ英軍を打破する難しさを十分認識していた。この困難を克服するため、13植民地の兵士たちの再訓練、欧州の軍事専門家の招聘、フランス・スペイン政府への軍事協力の要請を積極的に展開した。独立戦争は、長い間、英軍優位に展開するが、粘り強く死闘を繰り広げるアメリカ連合軍に強力な援軍が現れた。独立戦争で雌雄を決したヴァージニア州ヨークタウンの戦い (1781年10月) に西インド諸島から派遣された28隻から成るフランス艦隊がワシントンの軍隊を支援したのである。お蔭で米仏連合軍は英国軍に勝利するが、敗れた英国軍には、地域司令官を始め、9千人の兵士が降参するという不名誉な結末が待っていた。

これは余談であるが、投降した英軍捕虜の他に、各地の農園を脱出して、英軍の支援に回った奴隷が数千人投降してきた。この中に、ワシントンの農園を脱出、英軍の支援に回った奴隷が20人ほどいたが、ワシントンは彼らを農園に連れて帰った。他方、ワシントン総司令官の下で独立戦争を戦うアメリカ連合軍の士気は必ずしも高くなかった。連邦政府の財政基盤は極めて脆弱で、兵士に制服・軍靴・寝袋を給付できず、十分な食料も支給することもなかった。さらに、給与も1年以上、未払状態にあった。

1781年1月1日、ワシントンが最も憂えていた悪夢が起きる。ペンシルバニアから派遣されてきた1,300人の士官・兵士による命令不服従の謀反である。ワシントンは武器を捨て、投降することを兵士に伝え説得交渉の末、全員が投降した。この時、謀反を黙認すれば、さらに大きな事件に発展すると確信し、主導者12人を死刑にした。それから、間もなく、ニュージャージーで2百人の兵士が反乱を起こした。ワシントンは、反乱軍との交渉を拒絶、無条件投降を伝え、その後、数名の主導者を処刑した。この教訓から、ワシントンは、一計を考えた。投降者全員をニュージャージーの関係当局の前を行進させた、この狙いは、地元の政治家・有力者に、前線の兵士が悲惨な状況に置かれている実情を訴え、迅速なる待遇改善（給与の値上げ、十分な食料の補給、兵士に対する住宅施設の供与）を実現させることであった。

独立戦争がアメリカの勝利で終結すると、ワシントンは総司令官職を退き、故郷、マウント・バーノンの農園に戻る。ワシントンは軍役に従事している間、兵士に給与を払う財政的余裕が乏しいことを熟知していたので、独立戦争に従軍中、給与は一切受け取らなかった。さらに、戦争遂行に伴う多額の財政支出に少しでも応えるべく自分の農園の一部を売却、政府に奉納した。又、7年間の独立戦争中、一度も休暇を取って自宅に戻ることがなかったという。ワシントンは部下に厳しい戦闘を求める代わりに、自らも厳しく自己を律した。お蔭で、ワシントンの家族は現金収入に見放され苦しい生活を強いられたという。

独立戦争で勝利したものの、中央政府の財政状況は極端に悪化、英国支配から離脱した13州の中にも財政危機に直面する州がいくつかあった。これらの経験から、連邦政府と州政府の役割分担の見直し、連邦政府の権限強化（財政・通商・防衛・外交）の議論が高まり、連邦国家の在り方が見直されることになった。その結果、合衆国憲法を再度構築する機運が全土に広がった。これらの動きに呼応して、1787年5月、13州から55人の代議員がフィラデルフィアに集い、合衆国憲法の制定会議が始まる。退役して農園生活を満喫していたワシントンのもとに、再び呼び出しがかかり、同会議に参加する。憲法制定会議が開催されると、ワシントンはここでも議長に選出された。憲法の起草には時間がかかったが、1787年9月承認され、ワシントン初め39名が署名する。その後、各州の承認が行われ、1789年3月合衆国憲法が発効する。同月、大統領選挙が行われたが、ワシントンは無所属で立候補し、第1代大統領に選出された。

ここで、合衆国初代大統領就任当時の状況を眺めることにしたい。当時、ホワイトハウスもなければ行政府を収容する建物もなかった。そしてそこで働く官僚もいなかった。すべてはゼロからの出発であった。その時の仮首都はニューヨーク、ワシントンが自宅（マウント・バーノン）を出発してニューヨークに着くまで8日間もかかった。ワシントンは、行政についての知識はほとんど持ち合わせていなかったが、偏見をもたず威厳をもって自らに与えられた大統領の職務を遂行する決意する。



大統領就任後、取り組んだ最緊急課題は財政の立て直しであった。そのため、財務省の創設を議会に進言、議会の承認を得てアレクサンダー・ハミルトンを初代財務長官に起用した。國務長官にはトーマス・ジェファーンソンを登用する。ハミルトン、ジェファーンソンという政策が異なる異能の人材を重要ポストで起用するが、ワシントンは、ハミルトン財務長官の意見を組み入れ、合衆国の財政健全化、経済成長、産業の育成に心血を注いだ。副大統領には、マサチューセッツ州のジョン・アダムズが就任した。当時、政党としては、民主党、共和党の芽が育ちつつあったが、ワシントンは、1期目は無所属で出馬、2期目は、無所属を離れ、The Federalists党（後の共和党）で出馬した。

2018年の現在、行政の長：大統領の下に、400万人の職員が働いているが、ワシントンが就任した時はゼロであった。いかなる省を創るか、最初に議会との間で合意したのが、財務・國務・戦争・司法の4省であった。人材を集め、事務所を探す、そして各省の基本政策を固める、それだけでも多くの時間がかかった。ハミルトンが財務長官に任命されたのは、ワシントンの大統領就任から6ヵ月経過した1789年9月にずれこんだ。その後、ハミルトンは職員を素早く採用し、省庁間で最大数の陣容：39人に増やすが、その時点で、國務省の陣容は未だ5人、戦争省は2人だけだったという。合衆国の行政府が始動した1789年はこんな状況だったのである。

ワシントンは2期8年（1789年4月 - 1797年3月）の大統領職を終えた後、同僚・支援者から3選の話が出るが、欧州の世襲君主制に倣って政治を長期に担うのは民主主義国家：アメリカに相応しくないとして、大統領職は2期までとする以後の慣習を創った。

政界から引退後、ワシントン DC 郊外のマウント・バーノン農園に戻る。農園には120人の黒人労働者が働いていたが、ワシントンは遺言で、自分が亡くなった後、奴隷を解放することを家族に伝えていた。ワシントンの死から1年後、1801年1月1日、妻 マーサが署名し、全員が解放された。ワシントンは米国史上稀有の指導者であったが、黒人奴隷の扱いには若干配慮を欠いたのではないかと、そんな懸念を抱いた。前述したヨークタウンの戦いでは、自分の農園から20名ほどが脱出、在ヨークタウンの英軍支援に回った。さらに、ワシントンの死後、農園で働いていた120名の奴隷は、すぐに解放されると期待していたにもかかわらず、ワシントン家の結論が遅れたため、奴隷の一部には脱出計画が練られていたとのエピソードもある。

ワシントンは、父親の死後引き継いだマウント・バーノンの農園（ポトマック川沿いの丘陵地帯）をこよなく愛し、これほど美しいところはないと語り続けていた。1799年12月4日 マウント・バーノンの農園で逝去、享年67歳であった。亡くなる数日前、ワシントンは、猛吹雪の中、馬に乗って農園を見回るが、この作業が長時間に及び、吹雪でびしょ濡れになって帰宅する。家にはワシントンを待つ来客がいた。ワシントンはこれ以上待たしては失礼と、濡れた衣類を変えずに部屋に入ろうとする、家族が衣類を変えてから客に対応するよう説得するが、聞き入れず客と面談を始め

る。無理がたたって、その夜高熱に見舞われ、呼吸困難に陥る。翌朝、3人の医師がワシントン家に駆け付けるが、間もなく死を迎える。ワシントンは、葬儀は質素にと周囲に懇請していたが、それでも合衆国政府から派遣された小部隊が葬儀に参列した。しかしワシントンの葬儀は歴代大統領の中で最も質素なものであった。夫人 マーサは、ジョージ・ワシントンの死から2年後、1802年3月22日、70歳で亡くなる。現在、2人の遺体はマウント・バーノン農園内で管理されている。

\*\*\*\*\*

天のわざ、地のほまれ

—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

## 65. 物質を解凍する

今回は、サイエンス発展の歴史の中で、おそらくもっとも有名でしかももっともシンプルな公式：

$$\mathcal{E} = M c^2$$

について考えたい。ここで  $\mathcal{E}$  は物質の持つ全エネルギー、 $M$  は物質の質量、 $c$  は光速（光のスピード）である。前回、運動する物体の（観測された）質量は物体のスピード  $v$  に依存する、つまり質量はスピードの関数として表せることを知ったので今後しばらく

$$M = m(v), \quad m(0) = m$$

と書くことにする。 $m$  は物体のスピードがゼロの時の質量であるから、 $m$  を**静止質量**とよぶ。前回の結果によれば

$$m(v) = \frac{m}{\sqrt{1-\beta^2}}, \quad \beta = \frac{v}{c}$$

と書けるのであった。その結果、全エネルギー  $\mathcal{E}$  も物体のスピード  $v$  の関数になるので

$$\mathcal{E} = E(v), \quad E(0) = E$$

と書いて、以後  $\mathcal{E} = E(v)$  を**相対論的エネルギー**、 $E(0) = E$  を**静止エネルギー**とよぶことにする。物体の静止エネルギー  $E$  は静止質量  $m$  によって

$$E = m c^2$$

と書けることになる。

メソポタミアやバビロニアの昔から知られていて、2500年前にピタゴラスによって証明されたというピタゴラスの定理よりもシンプルに見えるこの公式は、相対性理論の創始者アルベルト・アインシュタイン(1079-1955)によって発見され、1905年、ドイツ語の論文として発表されたのだ(\*1)。「自然は簡にして明である」との金言の典型であるともされるこの公式の導き方の詳細は後程示すとして、まずはこの公式の意味するところを理解しよう。

ひとことで言えば、この公式は「質量とエネルギーとは等価である」と主張しているのだ。ここで物質は何であっても同じ、その化学的性質などに依らず、質量が同じならばそれらが持つエネルギー量は同じなのであると述べている。この公式は物質をエネルギーに変える換算公式なのだ。逆にエネルギー量を物質の質量に置き換える換算公式ともみなされる。通常は、そのへんに転がっている石ころがエネルギーの塊であるとは誰も思わない。では、重さ1キログラムの石ころがどれほどのエネルギー量に換算されるか、公式にしたがって数値計算してみよう。

$c = 299,792,458$  (m/秒) 、  $m = 1$ (kg)として計算すれば

$$E = m c^2 = 8.9876 \times 10^{16} \text{ (ジュール)}$$

となる。この値は驚くべきことに、あの関東大震災(マグニチュード7.9)で放出された総エネルギーの約2倍に相当するのだ(\*2)。

われわれの住むこの宇宙は、ビッグバン(\*3)によって生じたとされているが、その時点で宇宙には光(電磁波)が充満していたか、クオークとグルーオンの混合体があったのか、あるいはダークマターの塊があったのかよくわからないが、とにかく途方もなく巨大なエネルギーの塊が突然出現したのであろう。ビッグバン直後の宇宙の温度は2兆度を超えていたという。それが時間の経過とともに冷えてゆき、星や星間ガス、さらに大量のダークマターが生じ、それらが集まって(渦巻き)銀河が形成されたのだ。つまり、宇宙の冷却にともなって、**エネルギーの一部が物質という形を採って凍結したもの**と考えられる。因みに、現在の宇宙の温度は、絶対温度ゼロ(マイナス273度)の近辺まで下がって、マイナス270.4度になっている。今や、この宇宙は冷えきっているのだ。

エネルギーが一度物質という形に凍結してしまえば、それを解凍してエネルギーにもどすことは一般には容易ではない。たとえば、石炭を燃やして熱エネルギーを簡単に取り出すことができる。この場合、石炭は燃えてなくなるがその成分である炭素が失われたのではなく、炭素は2酸化炭素という形をとって空中に拡散してしまったのだ。化学反応の前後で元素そのものが消失してしまうことはない。ここに発生した熱(エネルギー)は化学反応にともなって出る反応熱なのだ。一方、氷を解凍するには熱を加えなければならない。氷は吸熱反応によって水になるが、この反応によって $H_2O$ はいささかも

失われることはない。氷を相対論的に解凍すれば  $H_2O$  は消失して莫大なエネルギーが発生する。

一方、ウラン 235 にスピードの遅い中性子を照射すると中性子はウラン 235 の原子核に取り込まれ、ウランの原子核を力学的に不安定な状態にするのである(\*4)。よそものが入ってきて(ぎりぎり)平和であった家庭を破綻に追いこむのだ。そしてウランはバリウム 141 とクリプトン 92 という 2 つの元素に崩壊してしまう。この際、3 個の中性子が放出されるが、崩壊後の物質の質量の和が崩壊前の物質の質量の和よりも少なくなっている。エネルギー保存の法則は常に成り立っているのであるから、ウラン崩壊後の質量欠損だけの(解凍された)エネルギーが熱となり光となって現れる。元素が核分裂(核融合も同じく)する際には一般に質量欠損が生ずる。化学反応には質量欠損は起こらないのだ。

なお、ウラン 235 崩壊の際に生じた 3 個の(遊離)中性子がまた別のウラン 235 の中に入り込み、連鎖的にウラン 235 の崩壊(核分裂)をひきおこすのだ。この反応がゆっくり進行するようにコントロールして熱を取り出す装置が原子炉であり、それが原子力発電として応用されたのだ。

それではいよいよこの公式を導くことにしよう。静止質量  $m$  の物体に短い時間間隔  $dt$  の間、一定の力  $F$  が働いてその物体が微少な距離  $dr$  動いたとき、力がその物体になした仕事  $dW$  は

$$dW = F dr$$

によって与えられる(\*5)。物体が得た速度を  $v$  とすると加えられた力  $F$  は

$$F = \frac{d}{dt}(M v) = \frac{dM}{dt} v + M \frac{dv}{dt}$$

と書ける。質量  $M (=m(v))$  は

$$M = \frac{m}{\sqrt{1-(v/c)^2}} = \frac{cm}{\sqrt{c^2-v^2}}$$

であったから、微小時間  $dt$  の間の仕事率  $dW/dt$  は

$$\frac{dW}{dt} = F \frac{dr}{dt} = F v = \frac{dM}{dt} v^2 + M \frac{dv}{dt} v = \frac{dM}{dt} v^2 + \frac{1}{2} M \frac{dv^2}{dt}$$

となる。この計算をさらに続けると( $M$  が  $v$  の関数で、 $v$  が時間の関数なので)

$$\frac{dM}{dt} = \frac{dM}{dv} \frac{dv}{dt} = \frac{cm}{\sqrt{c^2-v^2}} \frac{v}{(c^2-v^2)} \frac{dv}{dt} = \frac{1}{2} M \frac{1}{(c^2-v^2)} \frac{dv^2}{dt}$$

となる(\*6)。(かなり複雑な計算に見えるが、微分法を忠実に遂行しただけの

ことである)。これを  $dW/dt$  の中の  $dM/dt$  に代入すれば

$$\frac{dW}{dt} = \frac{1}{2}M \frac{v^2}{(c^2-v^2)} \frac{dv^2}{dt} + \frac{1}{2}M \frac{dv^2}{dt} = \frac{1}{2}M \frac{c^2}{(c^2-v^2)} \frac{dv^2}{dt} = c^2 \frac{dM}{dt}$$

となる。 $c^2$  は定数であるから、ここに得られた数式は

$$W = c^2M + A$$

と同等である。ここに  $A$  は(積分)定数である。なぜなら、これを微分すれば

$dW/dt = c^2dM/dt$  となるからである( $dA/dt = 0$ )。積分定数を除いた  $c^2M$  を相対論的エネルギーとよび(\*4)、それを

$$\mathcal{E} = M c^2$$

と書く。物体の速度がゼロの時それは静止エネルギーとなり

$$E = m c^2$$

と書かれて、これらは特殊相対論におけるアインシュタインの最も有名な公式として知られるようになったのだ(\*7)。

このアインシュタインの公式 ( $\mathcal{E} = M c^2$ ) は物体のすべての速度に対して成り立つのであるが、速度  $v$  が光速にくらべて小さい時には次の近似式が成り立つ：

$$\mathcal{E} = m c^2 + \frac{1}{2} m v^2 + \frac{3}{4} \frac{m}{c^2} v^4 + \dots$$

この近似式の第1項は物体の静止エネルギー、第2項は運動エネルギー、第3項以下はエネルギーの補正項であって、ニュートン力学からは得られないものである。ただし、この補正項は物体のスピードが小さければ極めて小さい。

以上で特殊相対論(概要)の説明を終わる。物体の速度とは、静止している観測者の観測した速度のことなので、相手から見ればこちらが運動しているように見えるのは当然で、速度はつねに相対的な物理量である。

ところが、特殊相対論では、**唯一の絶対速度が存在すること**を認めるのだ。それがつまり光の速度である。同じ光をどこで(真空中なら)どんな状況で(たとえば光を追いかけて)観測しても光のスピードは同じ秒速約30万キロメートルなのだ。その観測事実をもとにアインシュタインによって構築されたのが特殊相対論である。

しかしながら、それが記述する内容のなんと驚くべきことか。アインシュタインの特殊相対論の論文のタイトルは「運動する物体の電気力学」であって、かれは電磁気の法則が特殊相対論という土台の上に作り上げられているということを見つけたのである。電磁気の法則は、この宇宙に存在する基本

中の基本法則なのであるから、その法則が成り立っているかぎり、その結果どんなに奇妙なことが生じたとしてもそれが現実なのだ。

現代に生きるわれわれは、たとえばスマホを便利に使いこなしている。スマホを動かしているのは電気と磁気である。電気と磁気が従う法則を支えているのは特殊相対性原理である。そのようなわけで、われわれは特殊相対論のお蔭で便利に生活していると言っても過言ではないのだ。今や、特殊相対論など庶民の生活には関係ない絵空事だなどと言えたものではない。

大切なのは疑問を持ち続けることだ。神聖な好奇心を失ってはならない。  
(アルベルト・アインシュタイン)

顔を上げて星に目を向け、足元に目を落とさないようにしましょう。それを忘れないでほしい。見たことを理解しようとしてほしい。そして、宇宙に存在するものに興味を持ってほしい。知りたがり屋になろう。人生がどれほど困難なものに思えても、あなたにできること、そしてうまくやれることはきっとある。大切なのはあきらめないことだ。想像力を解き放とう。より良い未来を作っていこう。

(スティーブン・ホーキング「ビッグ・クエスチョン」青木薫訳より)

## (注)

(\*1)

英国の著名な理論物理学者スティーブン・ホーキング(1942-2018)の解説：Stephen Hawking [A brief history of Relativity] in {Andrew Robinson [Einstein] Princeton University Press, 2015} によれば、アインシュタインの有名な公式  $E = m c^2$  は、'娑婆' でひろく知られている唯一の物理学の公式であるという。

(\*2)

例としてあまりとりあげたくないのだが、このエネルギー量は広島に投下された原爆が放出したエネルギー量の約150倍に相当する。この原爆にはウラン235が1キログラム搭載されていて、ウラン235の核分裂により、その0.7%が熱や光(すべて電磁波)のエネルギーとなって放出されたと推定されている。このエネルギーが半端じゃなく、約7グラムのウラン235が崩壊しただけで、広島市を壊滅させるほどのものになったのだ。

(\*3)

現代の定説としては、宇宙は無から生じたという。ビッグバンによって巨大なプラスのエネルギーが生じたと同時に、空間には必然的に巨大な重力エネルギーが生じており、これがプラスのエネルギーを打ち消す巨大なマイナスのエネルギーとなる。こうして、宇宙のエネルギーレベルは常に(プラス-マイナス)ゼロの状態に保たれているのだ。問題はビッグバンが起きるキッカケは何かということなのだ。

(\*4)

ウラン 235 についている数字 235 は原子量、すなわち原子核中に存在する陽子の数 + 中性子の数をあらわす。

(\*5)

物理学辞典(培風館)によれば、エネルギーとは物体やシステムが持っている仕事をする能力であるという。状況によって「エネルギー」と「仕事」を使いわけると、エネルギーも仕事もそれらの単位はジュール(またはカロリー)であって、混同して使っても不都合が起こることはほとんどない。仕事率の単位はワットである。

(\*6)  $dv^2/dt = 2v(dv/dt)$ , また  $\frac{dM}{dv} = \frac{d}{dv}\left(\frac{cm}{\sqrt{c^2-v^2}}\right) = cm \frac{d}{dv}\left(\frac{1}{\sqrt{c^2-v^2}}\right)$  において

$$c^2 - v^2 = z \text{ とおけば } \frac{d}{dv}\left(\frac{1}{\sqrt{c^2-v^2}}\right) = \frac{d}{dz}\left(\frac{1}{\sqrt{z}}\right) \frac{dz}{dv} = -\frac{1}{2} \frac{1}{\sqrt{z}} \frac{1}{z} \frac{dz}{dv} \text{ となり}$$

$$\frac{dz}{dv} = -2v \text{ であるから、もとにもどして } \frac{d}{dv}\left(\frac{1}{\sqrt{c^2-v^2}}\right) = \frac{cm}{\sqrt{c^2-v^2}} \frac{v}{(c^2-v^2)} \text{ を得る。}$$

(\*7)

アインシュタインの公式  $E = mc^2$  はシンプルで美しい。その導き方も実に整然として美しい。サイエンスの世界に燦然と輝く偉大な成果のひとつであることに誰も異存はないであろう。しかしながら、これが同時に原爆製造の基礎方程式となったことは何という皮肉であろう。物事には必ず表と裏があるということのほんの 1 例に過ぎないということなのだ、と言えればそれまでであるが、強く深く考えを強いられる問題ではある。

(この項終わり)

\*\*\*\*\*

「静聴雨読庵より」

尾関陽四

サロン・ド・ミュージック・クラシック (第4回)

(5)ブラームスの室内楽

4 回目の「サロン・ド・ミュージック・クラシック」は原田さんの主宰で原田宅に集まった。今回も山崎さんが参加した。  
テーマは「ブラームスの室内楽曲」。

原:初めに、前回山崎さんからリクエストのあったシューベルトの有名な歌曲を、フォン・オッターほかで聴きましょう。

山:これですよ。懐かしい歌ですね。

原：さあ、ブラームスです。

尾：今回もまたニソチなテーマで、ブラームスの室内楽曲は、わが家には『ピアノ三重奏曲』と『クラリネット五重奏曲』しかありませんでした。あわてて、四重奏・五重奏・六重奏・ヴァイオリンソナタのCDを購入して勉強しました。

原：ヴァイオリンソナタ第1番・第3番、チェロソナタ第I番、弦楽六重奏局第1番、ピアノ五重奏曲、クラリネット五重奏曲のほかに弦楽四重奏曲第I番・第3番、ヴィオラソナタ、ピアノ四重奏曲、クラリネットソナタなどが候補です。

山：バラエティ豊かですね。

尾：ブラームスの室内楽は平均的に良いので、できるだけ多くの曲目を聴いてみたいですね。

原：では、『ヴァイオリンソナタ第1番』から。クレーメルとアフアナシエフの演奏です。

山：出だしからヴァイオリンがまろやかですね。

原：録音が素晴らしいです。

尾：クールな演奏ですね。

尾：次は『ヴィオラソナタ第I番』です。ズッカーマンとバレンボイムの演奏です。

山：ズッカーマンとクレーメルとはずいぶん違いますね。人肌のぬくもりを感ずる演奏です。

尾：ユダヤ系の演奏家の特徴ですね。

原：この曲はクラリネットソナタからの転用なんですよ。

尾：そうですか。

原：次は『チェロソナタ第1番』です。デュ・プレとバレンボイムの演奏です。

尾：この曲は演奏会で取り上げられているの？

原：取り上げられています。

尾：そうですか。なかなかいい曲ですね。プログラムを注煮していきましょう

原：次は『クラリネットソナタ』です。カール・ライスターとイエルク・デムスの演奏です。

尾：この曲は演奏会で取り上げられているの？

原：さあ、どうでしょう。あまり取り上げられていないかもしれません。

尾：後半は、『ピアノ三重奏曲第1番』から。スーク・トリオの演奏です。

山：各楽器のバランスが絶妙です。また、各音がしっかりと鳴っています。

尾：これだけアンサンブルの揃った三重奏団は少ないでしょう。一応、スークがリーダーですが、フッフロ(チェロ)もパネンカ(ピアノ)も主張するところは主張するという姿勢がよく見えます。

原：曲目良し、演奏良し。

山：録音良し。

尾：そして、装置(タンノイのスピーカー)良しで、満点ですね。

原：次に、『弦楽四重奏曲第1番』アルバン・ベルク弦楽四重奏団の演奏



です。E M i 録音の方です。  
山:バリバリと豪快に演奏しますね。  
尾:それでいてメリハリが効いています。

原:次に、「弦楽五重奏曲第1番」です。ブダペスト弦楽四重奏団の演奏です。  
尾:これぞ;古典的演奏という感じがします。

原:次に、「ピアノ五重奏曲」です。イタリア弦楽四重奏団とポリーニの演奏です。  
尾:ポリーニの存在が大きいですね。昔のキレや押し出しは彼ならではの。

山:イタリア弦楽四重奏団もシャープな演奏を聴かせてくれてます。

尾:曲全体に通俗的なところが窺えてびっくりしました。

原:次に、「クラリネット五重奏曲」です。シフリンとエマーソン弦楽四重奏団の演奏です。晩年に一度筆を折った後に作曲したもので、とにかく暗いです。

山:第2楽章はモーツァルトの『クラリネット五重奏曲』と似たフレーズが出て来ます。明らかに、モーツァルトを意識しています。

尾:ブラームスは、良くも悪くも、モーツァルトやベートーヴェンのくびきから抜けられなかったのですね。

原:最後に、『弦楽六重奏曲第I番』です。カプソンほかの演奏です。

山:六重奏だけあって、分厚い演奏ですね。

原:第2楽章はアンコール曲として演奏されることが多いです。

尾:私は通俗すれすれのところが気になりました。

原:さて、聴き終わって、どの曲が良かったですか?

山:『クラリネット五重奏曲』。

尾:『ヴァイオリンソナタ第I番』『ピアノ三重奏曲第I番』『クラリネット五重奏曲』でしょうか。

原:私は、『ピアノ三重奏曲第I番』『クラリネット五重奏曲』『弦楽四重奏曲第I番』を推します。

山:割と人気は偏って集中しましたね。

尾:ブラームスは「室内楽の宝庫」と言われることが体感できました。4月の「東京・春・音楽祭」でブラームスの四重奏・五重奏・六重奏のコンサートが二夜あります。それを聴いて、今日のおさらいをします。

山・原:すっかりブラームスの室内楽にとり張かれたようですね。

\*\*\*\*\*

## 『誰も見ていなくても良いことをする』社会(6)

臺 一郎

世界の銀座にゴミはない

銀座は過去何十年にわたって日本を代表する繁華街であり商業地だった。特に銀座通り、晴海通り、外堀通り、並木通りなどに沿った商業地は、国内ではもっとも高級店や老舗店が集積した街と言われてきた。中でも銀座通り沿いは、衣料、靴、鞆、宝石、時計、楽器、文具、趣向食品などの老舗の専門店や高級店、そして百貨店等が軒を連ね、首都圏のみならず広く関東甲信越全域からの買い物客や観光客を集めてきた。

しかしこの5～6年で、銀座の街は明らかに、そして急速に変わり始めた。何がどう変わったのか。何よりもまず客層や来街者の顔ぶれが大きく変わり始めた。それが店舗内の品揃えや商業ビルのテナントの入れ替えを加速し、或いは古い商業ビルから新たなファッションビルへの建替えを誘発した。

こうした変化は銀座地区の通りや公園などにおける、ゴミの散らばりや道路の汚れなどの街環境にどのような影響を与えているのだろうか。

実態確認のために地下鉄丸の内線の銀座駅で降りて、銀座の街の環境を確認した。時刻は平日の午後の3時頃。駅構内は朝夕のラッシュアワーほどではないが、大勢の乗降客が行きかっていた。一見して日本人ではないとわかる外国人がやたらと多い。ラフでカジュアルな服装から、殆どが観光客だろう。こうした外人観光客は新宿も多かったが、銀座は更に多く、しかも国籍がより多様な感じがする。そしてこの外人観光客こそが、銀座の街を変えたのである。

丸の内線の改札に一番近いC4出口の階段を昇り、数寄屋橋公園内の交番脇に出る。この公園は晴海通りと外堀通りの交差点に面している。信号待ちの人達の多くは、晴海通りの歩道で銀座4丁目方面に向かうようだ。ちなみに信号待ちの人達のざっと半数が外国人観光客である。

その人達に混じって信号が変わるのを待ちながら、周囲を見回した。形状や外装がカラフルでユニークなファッションビルや商業ビルがあちこちに見える。目の前の晴海通りの反対側には最近建て替えられたひとときわ大きいキラキラ系の商業ビル「東急プラザビル」がある。単純な直方体ビルではなく、壁面が傾斜していて、外壁も全体がブルー系の反射するガラスで覆われている。ちなみに設計者は江戸切子をイメージしたという。

やはり晴海通りと外堀通りの交差点そばにあった、ソニービルは既に解体されていて、現在はソニーパークというオープンスペースになっている。晴海通り沿いには銀座4丁目方向に向かってエルメス、アルマーニ、コーチ、GAP、グッチなどのファッションブランドの日本法人の本店ビルが見える。

さて、今回の銀座観察だが、先ず数寄屋橋交差点から晴海通りを銀座4丁目交差点まで行き、そこで右折して今度は銀座通りを銀座7丁目の交差点まで進む。そこでまた右折して花椿通りを並木通りまで歩き、またまた右折して並木通りを晴海通りまで進んで左折し、数寄屋橋交差点に戻るというコースだ。表通りや大通りもあれば裏道も含まれる。

信号が変わったので、スクランブルタイプの交差点を渡り、晴海通り左側の歩道を歩いて銀座4丁目方向に向かう。キョロキョロしながら歩いても7～8分で交差点脇の和光前に着く。この間歩道上にゴミや吸殻などは全く落ちていない。

4丁目交差点の和光の対角線上の向かいには、新しい商業ビル「GINZA

PLACE」がある。外壁が真っ白で、まるで発泡スチロールで覆われたような不思議な外観だ。銀座の中心とも言うべき4丁目の交差点は、一年中大勢の人が信号待ちや待合わせをする場所だが、ゴミや飲料の空容器などは全く落ちていない。

この交差点を右に曲がり銀座通りを新橋方向に歩いた。100mほど歩くと松坂屋百貨店の跡地を含む再開発で出来た大規模商業ビル「銀座シックス」がある。このビルは衣類、アクセサリ、化粧品、書籍などの多様なショップとレストラン等が入った大型の複合商業ビルだ。このビルの前を通り過ぎ、更に新橋方面に銀座7丁目の交差点まで歩く。

銀座通りは6車線の車道を挟んだ道の両側に、それぞれ7m幅の広い歩道がある。この歩道には綺麗なカラーの敷石で舗装されている。また銀座通りは、50年近く前の1970年から早くも週末や祝祭日の歩行者天国を実施した。

最近の銀座は猛烈な勢いで海外からの観光客が増えている。そのために、この幅の広い歩道は平日でも沢山の外人観光客が行きかう。にもかかわらず、歩道上にも車道上にもゴミは全く落ちていない。しかも道路の表面がとてもきれいだ。おそらく裸足で歩いても足の裏は殆ど汚れないだろう。中国人観光客がしばしば驚嘆する超清潔でゴミのない道路である。

さて銀座7丁目交差点を右折して花椿通りに入り、スズラン通り、西五番街通りを過ぎて、次の交差点で右折して並木通りに入る。裏通りや横道だが、閑散としているわけではなく、沢山ではないが人通りがあり、外人観光客も結構入り込んでいる。

並木通りは、一方通行の車道を挟んだ道の両側に十分な幅の歩道が確保されている。歩道の端には緑の多い街路樹が植えられて、歩道空間を潤いのあるものにしている。なので裏通り感は希薄だ。でも表通りに比べると幅員は狭いし、歩道を行く人の数も少ない。並木通りは資生堂本社ビルのあった辺りから晴海通りと交差するところまでが、時計、宝石、ブティック、レストランなどが集積する商業地となる。

この通り沿いに立地する店舗は大型店ではないが、超高級なブランド店も多く、富裕層や金持ちが実際に商品を買うために訪れる通りだ。この道もゴミや塵は全くなく、しっかり清潔である。ちなみに並木通りにあった欧米系のブランド時計店のショーケースには、なにげに500万円、600万円という値札のついた超高級腕時計に混じって、1250万円という値札のついた腕時計があり、ちょっとびっくりした。

銀座通りや晴海通りなどの大通り、そして花椿通りや並木通りなどの裏道を歩いてみてわかったことは、広い道であれ、裏道であれ、ゴミや空の飲料缶などは殆ど落ちておらず、歩道は実にきれいなことであった。実は翌々日の土曜日にも銀座を訪れ、4丁目交差点から八重洲方向に松屋デパートまで歩き、銀座2丁目の交差点を左折してマロニエ通りに入り、並木通りまで来たなら左折して晴海通りまで戻るコースを歩いてみた。このコースも道に沿って内外の有名ブランドの本店や大型店が集積し、大勢の来街者が歩いているが、やはりゴミはなく、道路の汚れも目立たなかった。

その日は土曜日であったために、銀座通りは歩行者天国で、広い車道の真ん中に銀座で“初めて”ゴミ箱が置かれているのを目にした。それはまるで

絶滅種の天然記念物のように繁華街ではほぼ姿を消したゴミ箱であった。

街や道が非常に清潔で美しいことは、日本人が思う以上に日本の都市の大きな魅力となっているのかもしれない。特に絶対数の多い中国人観光客にとっては日本の印象や評価を確実に高め、リピーターを増やす要因のひとつになっていると思う。また欧米人の中でさえ、ブログに「日本の道路は、もし食べ物を落としても、拾って洗わずに食べられるほど清潔だ」と書いているから、先進国の中でもトップクラスに清潔なのだろう。

この清潔さは今後とも維持したい日本社会の特徴である。それにしても街中にゴミ箱がなさ過ぎる。海外からの観光客にまで、『ゴミは自分で持ち帰り』はないだろう。来年は猛暑の東京オリンピックだ。飲料の空瓶や空き缶などを捨てるゴミ箱は是非設置していただきたい。

\*\*\*\*\*

## 二府、二県を二泊三日で、津田孚人

京都のロシア料理店「キエフ」のオーナー加藤幹雄さんから「加藤登紀子のディナーショー」が3月31日(日)にあると知らされ、ついでを含めて2泊3日の関西旅行をしてきました。

宿泊は、どこに行くにも便利な大阪駅直結の「グランビアホテル」にし、31日は午前10時過ぎの「ひかり」で新大阪へ。ホテルで一休みして京都へUターン。「キエフ」は、京都南座に近い。阪急梅田駅から特急で四条・河原町へ。午後5時過ぎに「キエフ」へ到着。座席は、窓側、眼下に鴨川が良く見える。

食事後、午後7時からショーが始まる。お客さんは70名ほど、馴染みの追っかけファンもいる模様。シャンソンを歌い、トークでは故石井好子が出てくる。いずれも懐かしい。1時間はあっという間に過ぎ、サイン会は大混雑なのでCDを一枚買って大阪へ。京都は雨模様でしたが、街は夜9時近くても人で一杯、外国人が圧倒的に多い。

翌日4月1日は、昨年、興福寺の「中金堂」が落慶式前で拝観できなかったもので、奈良へ。10時前に大阪駅からJRの「大和路快速」で約40分奈良着。興福寺への途中、旧市街の「奈良町」へ入り、「元興寺・がんこうじ」へ寄る。

元興寺は、前身が法興寺で、飛鳥の地に建てられたので飛鳥寺ともいわれ、元明天皇の和銅3年(710年)に都が平城京に移り、法興寺も養老2年(718年)同じく移り、その時、寺名が「元興寺」になっている。

当時の瓦が現在も使われていて有名、桜が満開、日本最古の屋根瓦をバックに写真を撮るが、翌日、NHKの全国ニュースで同じショットが放映され、ビックリした。

奈良には、京都とは違った魅力がある。興福寺は、20年ほど前に、たまたま訪れた時に瓦寄進して「興福寺の友の会」の会員になり、毎年秋に行われる「塔影能」によく出かける。

「塔影能」は、10月第一週の土曜日、国宝の「東金堂」と「五重塔」の前庭に舞台を設え、能が奉納される。一般人も参加、未舗装の砂利広場に簡易椅子が1千くらい用意される。座席指定で、席のあたりはずれはあるが、国宝の建造物に囲まれ、「月光の下」で行われる能、なかなか贅沢、

歴史の重みを強く感じさせられる。

興福寺中金堂は、藤原不比等が和銅3年、平城京遷都と同時に創建、以後7回も焼失、江戸後期に規模縮小した「仮堂」がたてられ存続、平成12年に老朽化が進み解体、発掘調査ののちに平成30年、再建落慶を迎える。中央の木造・阿弥陀如来座像は5代目、化粧直しされて金ぴかとなって安置され、さらに法相の教えを伝える法相柱がある。

興福寺の境内、鹿が外人観光客に大うけ。上下に首を振って、鹿センベイをねだるしぐさ、これまであまり見たことはない。

帰りは、興福寺に近い近鉄奈良駅へ、ちょうど「特急・神戸三ノ宮行」があったので、「三ノ宮」へ行くことにした。ほぼ一時間かかるが、奈良―神戸（近鉄電車・阪神電車）間の＜電車賃が970円＞にはいささかビックリ。関西の私鉄は便利で安い。関西好きの一つはここにある。

神戸には格別の思い、かつて神戸に本社を置く(株)ノーリツに出向し、1年間、地下鉄終着駅の西神中央から神戸まで通っていた。阪神淡路大地震でほぼ全滅した三ノ宮、完全復興した感じ、来るたびに驚かされる。会社のあった旧居留地地区もその傷跡は全く見えない。サンチカにある＜モロゾフ本店＞で一休み。帰りは、JR三ノ宮駅から＜新快速＞電車で大阪駅へ、約20分で着く。ホテル隣接の大阪大丸の地下食品売り場で買いものをして帰る。

最終日の4月2日、甲子園の選抜高校野球準決勝に地元千葉の習志野高校が第一試合に登場するので、応援に参ずることにする。新幹線は夕方の予約なので問題ない。試合は午前11時開始なのでホテルを9時半に出て阪神・梅田駅から＜甲子園口駅＞へ。阪神タイガースの試合と違って、当日入場券を求める列は長くない。特別内野席（席はフリー）が@2千円。習志野高校サイドの一塁側へ行き、ダッグアウトの少し上の席に座る。グラウンドに近い席だったせいが、意外にも球場が小さく感じる。

試合は、習志野が逆転勝利、両軍合わせてホームランが2本、エラーが1つ。引き締まった好ゲームでした。習志野高の大応援団、大分・明豊高の僅かな応援団、場内の大歓声、売り子は美人ぞろい・・・球場ならではの臨場感、テレビ観戦の比ではない。

第二試合は見ずに阪神電車で帰阪、ホテルで荷物を受取り、予定通りの新大阪駅始発の新幹線にのり帰京。

僅か二泊三日でしたが、大阪府、京都府、奈良、兵庫と2府、2県を、フリーのマイペースで旅してきました。

\*\*\*\*\*

## 文化講座・講演会

\*\*\*\*\*

### 奈良興寺文化講座 2019年5月16日（木曜日）

午後5時半～6時半：第一講

「復古的な興福寺の建築群」

東京大学大学院准教授 海野 聡

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映  
会場：(学) 文化学園 文化服装学院内  
受講料：500円 先着200名  
(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線  
新宿駅3分)

\*\*\*\*\*

### 第105回 新三木会 講演会のご案内

1. 日時 5月16日(木) 13時～ オリオンルーム
2. 講師 加藤哲郎氏 一橋大学名誉教授 政治学
3. 演題 『日本の社会主義一戦前の思想・運動と群像』
4. 申込 Eメール：[shinsanmokukai@gmail.com](mailto:shinsanmokukai@gmail.com)

電話：070-6994-0137 フルネーム・卒年・所属(紹介者)記入。

### 天地シニアネットワークで申し込んでください

5. 会費 一般2千円、 婦人千円、学生(院生)無料、茶話会ありません
6. ホームページ <http://jfn.josuikai.net/ircle/shinsanmokukai/>

### 7. 今後の予定

第106回 5月16日(木)『メルケル時代の終焉期と、ドイツ・EUの今後』  
早瀬 勇氏 全国日独協会連合会副会長 元金沢星稜大学学長  
一橋大学34年卒 西独ゲッティンゲン大学留学

第107回 6月20日(木)『歴史哲学としての世界史』

本村凌二氏 東京大学名誉教授 古代ローマ史研究家

一橋大学48年卒 東京大学大学院博士課程昭和55年了

新三木会代表幹事 則松久夫 070-6994-0137 090-3813-0137

\*\*\*\*\*

## 事務局

\*\*\*\*\*

<投稿>を歓迎します。

<プリント版・郵送>

メール版を編集してプリント版を月に1回発行郵送しています。

お申込みくださればお送りします。一応、実費として月@350円(4200円/年)をいただいておりますが、強制するものではありません。

<振込先>三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532  
(口座名) テンチシニアネットワーク

## 天地シニアネットワーク・テーブル・492号

発行：2019年4月15日

天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：[tentisenior06@gmail.com](mailto:tentisenior06@gmail.com)

電話・FAX・03-3819-7651

